

## 選考結果総評

一般財団法人水・地域イノベーション財団では、4回目の助成事業の募集をいたしました。研究・活動助成への応募状況は以下の通りでした。研究助成部門は、専門コース5件、一般コース1件、活動助成部門は、本格コース3件、一般コース6件で、研究・専門コースへの応募は、件数もさることながら、当財団が助成するにふさわしい多数の応募がありました。また、活動・一般コースへの応募も昨年を大きく上まわりました。

研究・専門コースでは、日本全国の湧水を対象として、地域社会の形成に果たした歴史的役割に関する研究、新潟県福島潟を対象にして複雑な水循環の可視化、水循環の持続可能性につながるように、地域住民が関与するプログラムを通じた実践的研究、水辺のすこやかさ指標を湖沼や干潟に拡張するとともに、健やかさ指標等を用いた環境学習支援の在り方の研究、そして毛鉤という伝統的技術に対して工業デザイン、民俗学、水理学という学際的チームによる研究を採択いたしました。採択の目安は2件でしたが、いずれも「水と地域」に深くかかわるテーマで、社会的要請にも応える研究であるということで助成いたしました。

研究・一般コースへの応募は、高校生によるカワニナとホタルが生息する水環境の調査でした。保全活動を通じ知見を広く地域に伝えていくということで、助成の意義は高いと認められます。

活動・本格コースでは、日本、英国、インドにおける川と人との関わりの変化をショートフィルムなどの媒体によって広く伝えていこうとする活動、アートの表現によって世界の水危機を訴えていこうという活動を採択しました。前者は、そのアプローチを広く適用することにより、発展性も期待できるものと思われれます。後者は、日本人の水にかかわる問題意識を深化させていくうえで、ターゲットを拡げていける可能性を秘めていると考えられます。

活動・一般コースは、高校、市民団体から多様な応募がありました。地域の水と産業に関わる問題への取組み、身近な自然再生、地域の川や水インフラでの体験機会の提供、世界の水問題への理解促進、下水汚泥の活用の一環としてのコスメ開発といった活動を採択しました。このような活動へ参加すること、成果が広く伝えられることは、当財団の助成活動の趣旨にかなうものです。

以上、併せて12件の応募を採択いたしました。当財団は、昨年3月に名称を変更し、“水×地域”に視点を置いた研究・活動を重点的に採択していきたいと考えていたところ、今回、応募いただいた方々には、その意図を十分汲み取っていただいたという感触を得ることができました。また、多様性に富んだ応募内容は、当財団の趣旨も少しずつ関係者に浸透しつつあるからではないのかと思います。当財団としても、これにお応えしていかなければならないと考えております。次年度も引き続き積極的なご応募をお待ちしております。

2024年6月3日

一般財団法人 水・地域イノベーション財団